

桜は種類が多く、園芸種まで含めると300種ほどになるという。とうてい私の手におえるしろものではない。高校生物教科書の学名・和名の例に、*Prunus yedoensis* Matsumura ソメイヨシノが載ったことがある。30数年教師をつとめて、サクラの学名が使用教科書に登場したのは、これだけである。昭和38年東書発行の教科書である。最近教科書の視点が移り、分類は昔ほどくわしく載らなくなった。分類は総合だからむしろきちんと教えることが大切だと思う。

後日談になるが、今年の秋一已に行く機会があって、旧一已小学校のあった桜坂に行ってみたが、あまりの変化に懐しさの感覚は失せてしまった。農業高校としても50年近くの歴史を経てしまって、懐しさのつけ入るすきはなかった。私は校庭に立たずみではみたものの、落ち着く気持にはなれず校地からそそくさと出てしまった。只、校庭下の小川は同じ位置を流れていた。

## 砂漠と氷河を旅して

星野 フサ

### 出発前

夏休み中に北京で国際学会が開かれるということを知り重い腰を上げる決心をしたのは、2年前のことです。

それなのに毎日のように行こうか？止めようか？とうじうじ悩んでおりました、、、。それというのも私はまだ一度も海外旅行というものをしたことがなかったのです。白髪が増える年になったのに、我が職場で海外旅行の経験が無いのは私だけという情けない日頃の思いも重なって私は一生一代の大決心をしました、、、。ひとりでも出かけてみよう！ということで大変な緊張の下、10日間の中国の旅にでかけました。

日本を離れて、、、

1991年8月10日10時成田発の飛行機は離陸しました。その飛行機の私の隣の席は男性でした。その人は、ジャイカで中国人に酪農技術の指導に再び行くとのことでした。中国の人達とは政治問題

について話しをあまりしない等よもやま話しをしているうちに北京の飛行場に着きました。赤い大きな横幕を見て私は共産主義者の方々に歓迎されているな、、と感じつつ税関を通過しました。待合室の向こうには紙きれを持った人達のくろやまです。INQUAの歓迎は無く、ちょっと寂しい思いをしました。5人位の人垣で歓迎されているのはあのジャイカの男性です。

ホテルまでどうやって行ったらよいか、、、。一人旅は心細いものでした。飛行場の出口の所でお世話になった在中国滞在の日本人の方の親切は忘れられません。彼に換金の方法を教わり、タクシーで北京のホテルにやっとのことで到着しました。

北京に着いて

ホテルでは、日本人に顔つきがそっくりなのに英語でなければ話しが通じませんでした。フロントの男性や女性を眺めて日本人と中国人の古代からの血のつながりを考えずにはられません。フロントに英語のよく解る女性がいたので、とても助かりました。北京から西へ2,500kmほど離れた巡検の出発地点ウルムチまでの切符は、INQUAの役員の方々にお金を払って予約してありました。そのウルムチ行の飛行機の旅券を、北京のBICC（ここは、日本の地質調査所に当たるような所です。）で受け取らなければなりません。それで、タクシーでBICCまで連れていってもらいました。その玄関前広場には、10数本の赤旗が翻り本当に驚きました。その帰り道で天安門前広場を通りました。おびたしい赤旗の横幕をこえて、その向こうに毛主席の巨大な写真がみえてきました。その広場はがらんとして日本の日の丸と中国の旗が交差して立てられているのが目に入ってきました。実はこの日、日本の海部首相が北京を訪問していたのです。この日、私は日の丸に対して日本で感じたことのない懐かしさを感じました。BICCで旅券を受け取りました。私は中国の確認というシステム一切符を買ってお金を払って切符を受けとっていても、確認の連絡をしていない場合は無効であるという制度を知りませんでした。そのためにもう少しで切符を失う所だったので。日本代表の太田先生の判断に救わ

れ、私は切符を受け取ることができました。今回参加した日本人の中に旅費を2回払うことになった悲劇の日本人のことを、帰国後耳にしました。

ウルムチにて

北京に着いた翌日、北京から巡検の出発地点のウルムチに飛行機で飛びました。ここでは機内食もよくビャクダンの扇子をもらったり。真夏だと



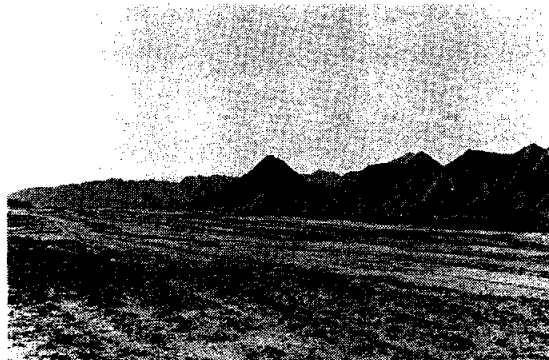
いうのに天山山脈の氷河の山並が太陽に輝き麓に広がる不毛の砂漠は居眠りをしていた私を目覚めさせるのに充分でした。

北京空港で知りあった王相林さんの話しによるとウルムチの周辺の人々は、天山山脈の氷河の融雪水によって生かされているとのことでした。

ウルムチに着いてからどこにいったらよいのか解らなくて王相林さん親子に本当にお世話になりました。37度もあったと宿に着いて知りましたが、私の咽は渴いてからからでした。7日ほどこの砂漠地帯に滞在しましたが咽の弱い私は、帰る2日前には咽が痛くて夜寝つかれませんでした。

カッパに傘はひどく重かったのにここではどんなに曇っていても雨は降らないとのことでした。ウルムチは、天山山脈の北側にありシルクロードの始まるの地点に近いのです。私達巡検の一行は小型バスに乗り西はクイタン、東は天池、南はウルムチNo. 1氷河まで見学させてもらいました。途中の景色は殆ど死の砂漠でした。

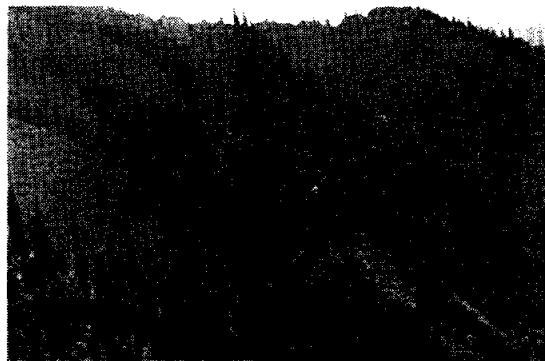
主な見学地を写真で説明します。



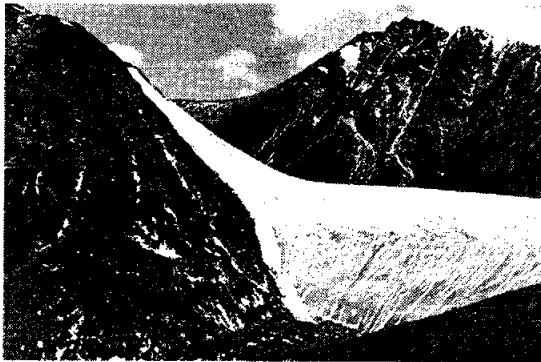
中央の三角形の山は、赤色で古第三系のもので、この左はジュラ紀より古くその更に左に天山山脈がありその向こうにチベット高原があります。中央の山より右に行くにつれて新しくなり一番右が、第四系のれき岩でそこから右は、ズンガリア盆地の砂漠となります。山には木が一本もないのには本当におどろきました。



ウルムチNo. 1氷河の末端が作る河岸段丘の段丘面の上にウルムチの人々の家が建っています。山にはやはり木が一本も無い。中央に見える低地の木は、人が植えたポプラです。



ウルムチNo. 1氷河に向かう途中にあったトウヒの仲間はこんな景観で分布していました。これは *Picea Schrenkiana* であることがわかりました。谷筋によく発達しているのがわかります。



ウルムチNo. 1氷河の末端の様子はこんな具合です。ゴウゴウと水の流れる音がこもって氷河末端の小さな穴から水が吹きだしていました。高度は3,560mで息ぐるしく胸がおされました。周囲にころがる岩石は片麻岩であり、これらの岩石の年代はデボン系とのことです。



ウルムチNo. 1氷河のU字谷。すばらしい眺めです。

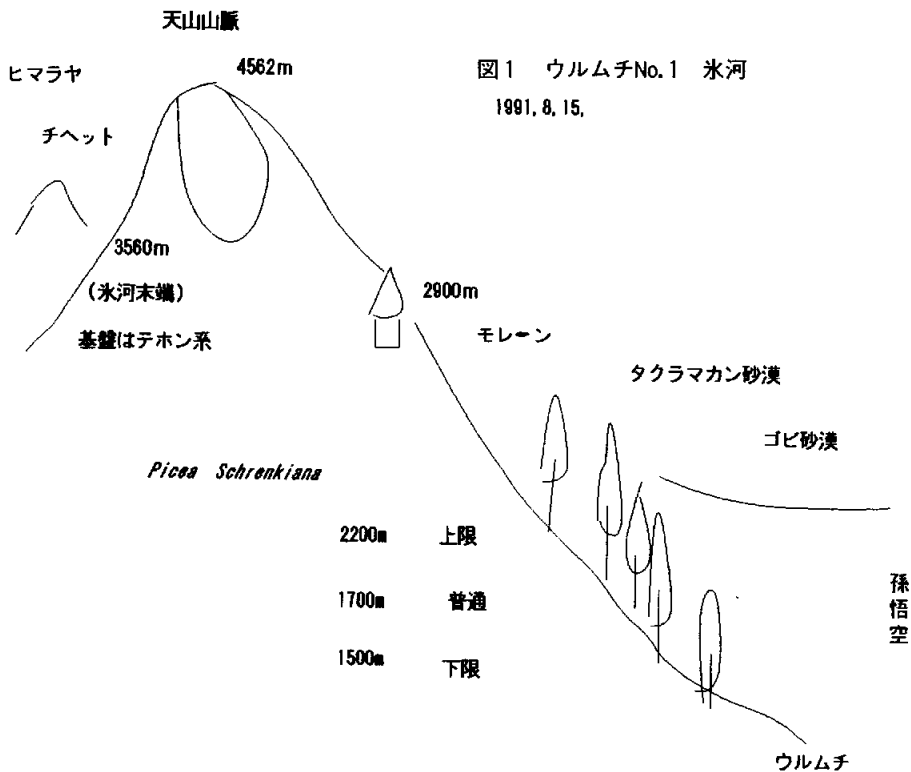
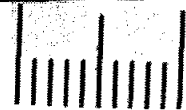


図1 ウルムチNo.1 氷河  
1991. 8. 15.

ウルムチNo. 1 氷河末端 (3,560 m) にあったコケに落下していた *Picea Schrenkiana* の花粉の微分干渉像です (1 目盛0.01mm)。分布の上限より 1,360m 位高い位置にあるにもかかわらずやや高い出現をしています。

図 1 はウルムチNo. 1 氷河の概略の様子を示します。京都大学の清水大吉郎先生の高度計の助けをうけて描くことができました。

ウルムチNo. 1 氷河末端に少量あったコケを花粉分析してみた結果が表 1 です。肉眼でたしかめた黄色い花とコケ以外に沢山の花粉が産出することを示しています。今後花粉分析の解釈上充分考慮すべきでしょう。つまり図 1 によるとトウヒ属の上限は 2,200m となりますので 3,560m の氷河末端でトウヒ属が全花粉胞子の 7.8% も産出していることは飛来したものが高い比率を占めているという点で注目されます。

表 1 ウルムチNo. 1 氷河末端部のコケ上の花粉分析

	ウルムチ2,900m	ウルムチ3,560m
トウヒ属	13.00	7.80
ガマズミ属	0.00	1.60
カバノキ属	1.00	0.00
カヤツリグサ科	18.00	12.50
キク亜科	6.00	3.10
ヨモギ属	14.00	43.80
バラ科		1.60
アカザ科	9.00	17.20
ナデシコ科	0.00	4.70
イネ科	26.00	3.10
キンポウゲ科	11.00	0.00
センニンソウ属	1.00	0.00
単条型胞子		1.60
十字花科	1.00	3.10
同定総数	100.00	100.00

表 2 ウルムチと札幌の気候比較

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
月平均気温(℃)	ウルムチ	-15.2	-12.2	0.7	10.8	18.9	23.4	25.7	23.8	17.4	8.2	-2.6	-12.0	7.3
	札幌	-4.9	-4.2	-0.4	6.2	12.0	15.9	20.2	21.3	16.9	10.6	4.0	-1.6	8.0
月降水量(mm)	ウルムチ	6	4	19	23	25	29	16	19	14	17	15	7	195
	札幌	114	92	78	65	59	76	80	131	142	115	104	101	1,158
月平均湿度(%)	ウルムチ	77	76	71	48	40	40	40	39	42	56	74	79	57
	札幌	74	72	70	65	67	76	79	79	75	72	70	72	73

理科年表 (1991)

帰国して

中国の旅を無事終えて帰国した私はすっかり日本の植生を見る目が、コペルニクス的に変換してしまいました。参考のために両地点の気象条件の違いを図 2 に示します。日本は夏に雨が多く植物にとって大層恵まれていることがよくわかります。帰国した日、成田に泊り、その翌日 11 時過ぎ直接勤務先にでました。その 1 時間後ソ連邦のゴルバチョフ大統領が失脚のニュースが報道されたのです、、、。

